

## 令和2年度第1回 鳥取支部評議会の概要報告(確定)

<b>開 催 日</b>	令和2年7月16日 木曜日 午後1時30分から3時30分
<b>開 催 場 所</b>	協会けんぽ鳥取支部 会議室
<b>出 席 者</b>	藤井評議員(議長)、竹中評議員、河毛評議員、田中評議員、花原評議員、 嶋田評議員、細田評議員 【順不同】
<b>議 題</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和元年度 決算報告について</li> <li>2 令和元年度 事業報告について</li> <li>3 支部保険者機能強化予算について</li> </ol>
<b>議 事 概 要 (主な意見等)</b>	<p>○議題1 令和元年度 決算報告について</p> <p>資料に基づき事務局より説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1：令和元年度 財務諸表</li> <li>・資料2：令和元年度 決算報告書</li> <li>・資料3：令和元年度 全国健康保険協会（健康保険）決算報告書の概要</li> <li>・資料4：協会けんぽの令和元年度決算見込み（医療分）について</li> <li>・資料5：協会けんぽ鳥取支部 令和元年度収支</li> </ul> <p>≪主なご意見と回答≫</p> <p><b>【事業主代表】</b>          国に対しての返還金の推移はどのようになっているのか。決算が黒字になっているので、返還金も多くなっているのでは。</p> <p><b>【事務局】</b>          昨年度の返還金よりも700億円増加し、今年度は1,156億円になっている。</p> <p><b>【事業主代表】</b>          毎年の事であるが、収支見込みよりも黒字が多くなっている。現状4.3ヵ月分の準備金が積みあがっているが、逆に国庫補助率の削減につながらないか。積立金の現状、今後の見通しをどのように考えているのか。</p> <p><b>【事業主代表】</b>          4月以降、新型コロナの影響で、景気への影響も大きくなっている。このままでは企業の負担が増加していき、倒産する会社も出てくる。ここ数年間は準備金残高を利用して保険料率を下げることも考えるべきではないか。今後の景気の悪化と準備金残高のアンバランスが目立って</p>

いる。

#### 【事務局】

企業の負担を軽減するため、準備金残高を使用して保険料率を引き下げるというのも一つの考え。協会けんぽでは保険料の納付猶予を行っており、6月12日時点で299億円になっている。この金額はまだ一部だと思われるが、納付猶予がどれくらい役に立つのか、あるいはもっと必要になるのか、今後注視していかなければならない。

リーマンショック時、標準報酬月額伸びはマイナスになったが、保険料率を上げたことおよび国庫補助率が引きあがったことで保険料収入が伸び、平成22年度の単年度収支差は黒字になった。現在は準備金残高が3兆3920億円あるので、単年度収支差がマイナスになっても何年かは持ちこたえることができる。これまで保険料率10%を維持してきたのは、後期高齢者支援金の負担増や現役世代の減少を見据えてのもの。

#### 【事業主代表】

大規模健康保険組合の解散により被保険者が増加し、保険料収入の増加になったとあるが、逆に協会けんぽから健康保険組合へ移行する事業所はどれ位になりそうなのか。過去は協会けんぽから健康保険組合に移行する事業所の方が多かったが、新型コロナの影響はあるのか。

#### 【事務局】

昨年度、人材派遣健康保険組合から52万人、日生協健康保険組合から16万人被保険者が協会けんぽへ移行するなど、大きな動きがあった。今後については不透明であるが、協会けんぽの平均保険料率10%を一つの目安として、解散を考える健康保険組合が出てくると予想される。

#### 【学識経験者】

新型コロナウイルスの影響で賃金が下がり、保険料収入が減少することと、医療機関の受診控えによる保険給付費の減少が収支にどのような影響を与えるのか。準備金の残高についても、今後の見通しが立たない中ではこれまでとは違った発想で考えていかなければならない。

#### 【事務局】

標準報酬月額が下がると単年度収支がマイナスになることが考えられるが、医療機関への受診控えの状況が続いており、医療費の支出も減少するので、これらの兼ね合いを見なくてはいけなく、今後の予測がつきにくい状況である。

#### 【被保険者代表】

雇用調整助成金や持続化給付金等、リーマンショック時以上に国は財政支出を行っている。生活保護受給者も増加している。協会けんぽ単体で見れば準備金残高を使用することで対処する

ことができるかもしれないが、国の社会保障全体で見たときにお金の分配のやり方がどう変わってくるのか。国庫補助率等にも影響が出てくるのではないか。結果として収支が黒字であっても保険料率を上げないといけない、ということになるかもしれない。

**【被保険者代表】**

健康保険制度を永続的に続けていくことが重要だが、準備金残高がかなりの額が積みあがっている現状、何か還元される方法があってもいいのでは。

**【事務局】**

今年度は特定健診の補助を 6,650 円から 7,150 円に引き上げを行っている。今後も加入者の皆様が健康になる方策を行っていききたい。

**【事業主代表】**

準備金は 1 カ月分積み立てる必要があるところを、4.3 カ月分積みあがっている。将来に渡ってのしっかりとした方針を国が出すべきではないか。我々は評議員をやっているので保険料率や準備金について理解しているが、一般の加入者の方々は現状どこまで理解されているのか不安である。

**【事業主代表】**

国の借金を減らすには、消費税を増税するか社会保障費を減らすかのどちらか。国庫補助率に目をつけて、減らされるかもしれない。

**【事業主代表】**

定年延長やパートタイマーの適用拡大の影響で保険料収入は増加しているのに、「将来が不安だから保険料率 10%を維持する」、という考えはどうかと思う。

**【事務局】**

適用拡大の影響を見ると、賃金が低い方が加入することになる。国の試算によると、協会けんぽは 50 億円、健康保険組合は 40 億円、事業主負担は 680 億円増加するので、被保険者数が増えるのは「保険料収入が増えるのでいいこと」とは言い切れない。

**【事業主代表】**

事業主側からすれば、負担がとて大きくなっている。

○議題2 令和元年度 事業報告について

資料に基づき事務局より説明

- ・資料6. 令和元年度 事業実績報告について

【学識経験者】

データヘルス計画の上位目標はいつまでに、という期限はあるのか。

【事務局】

データヘルス計画は平成30年にスタートし10年程度後に数値目標を達成する、というもの。

【学識経験者】

数値はよくなっているのか。

【事務局】

鳥取はメタボの数値はそれほど悪くないが、血圧の数値が悪く、年1%悪化しているのが現状。この原因を昨年実施した「食生活に関するアンケート」の結果で分析を行っているところ。今後も特定保健指導や各種情報発信を行っていく予定。

【被保険者代表】

レセプトの調査、チェックはどのように行っているのか。

【事務局】

レセプト点検員が内容点検を行っている。単月だけで見るとはならず、時系列的に見て疑義がある所がないか等の確認も行っている。

【事業主代表】

特定保健指導の実施率が悪い原因の一つは保健師の欠員ということだが、補充は行っているのか。

【事務局】

今年度ようやく1名採用できたところ。他の自治体や医療機関も保健師の募集を行っており、なかなか採用ができない状況が続いている。健診実施機関への外部委託による健診当日の保健指導についても、健診機関自身のマンパワー不足でなかなか進まないのが実情である。

○議題3 支部保険者機能強化予算について

その他

資料に基づき事務局より説明

- ・資料7. 鳥取支部 令和2年度予算（支部保険者機能強化予算）

【被保険者代表】

鳥取が全国で最下位になっている項目がわかれば、それについて事業展開できるのではないかと。

特記事項

特になし

- ・傍聴人：新日本海新聞社記者1名
- ・次回評議会の予定：令和2年10月